

小樽商科大学 e-Learningの取り組み —ALC NetAcademy2による自学自習とTOEIC、 モバイルアカデミーについて—

横村 栄美 (小樽商科大学)

—2008年9月号—

<ALC NetAcademy2 とTOEICについて>

小樽商科大学では、2005年7月よりALC NetAcademyを導入した。その1年後、ALC NetAcademy2 (以下NA2) へのバージョンアップを行った。導入当初は授業への導入は個人の先生方の判断によるものであったため、利用頻度はあまり多いとはいえなかった。

今年度より、1年生の授業で正式にNA2を導入した。これまで通年科目となっていた英語科目を、今年度入学の1年生よりすべて半期科目とし、1単位をe-Learningクラスとした。NA2はこのe-Learningクラスで導入し、自学自習の進捗と、TOEICテスト (IP / SP) の結果を成績基準 (最低400点以上) として示した。北海道内で、TOEICの受験を進め それに関する授業を提供している大学は少なく、TOEICへの関わりは北海道は遅れているといえる。またe-Learningに関しても、CALL教室・設備については、全国的に見ても遅れているように思う。

そのような中で、本学ではTOEIC運営委員会の賛助会員となり、積極的にTOEICを全学的に取り入れ、学生にNA2での学習を課し、学習した結果をTOEICで判断することとした。これにより、英語の1単位を習得するためにはTOEICが必須となったため、学生は卒業時までにはTOEICを必ず受験する。

授業は、基本は自学自習であるが、毎週の学習モデルをシラバスに示した。学習モデルとずれる学生も多いことから、毎月学習すべき最低ユニット数をNA2の「お知らせ」を使って示した。毎月、リーディング・リスニングとも、テストを含め毎週1・2ユニットずつ、TOEIC演習は1ヶ月で3ユニット以上を学習することと、道場の単語テストも進めること、毎月末までに終了しておくべきユニット数を示した。学習時間や学習ユニット数が極端に少ない学生は個別に指導する予定であったが、該当する学生はおらず、むしろ予想していたよりも学習時間も学習ユニット数も多い学生が多く、驚かされた。今後はNA2とTOEICスコアの相関をとりたいと考えている。

<モバイルアカデミーについて>

小樽商科大学では現在、夏休み期間中の英語学習の一環として、アルクのモバイルアカデミーを導入している。期間は8月1日から10月31日までである。今回試験的に、本学独自のコンテンツを作成した。これは、普段の使い方は知っていても、ビジネス場面では別の意味を持つような単語を300語選び 例文に当てはまるように4択から正答を選ぶよ

うになっている。本学は商科大学ということもあり、ビジネス系の英語の使い方を知らないということが大きく障害となったり、TOEICなどの外部試験のスコアに影響したりする。そこで本学学生に合わせた独自教材を作成することを検討しており、モバイルアカデミーはその最初の段階である。

モバイルアカデミーは、携帯電話で毎日学習できることが利点であるが、強制ができないという点が残念である。しかし、予習復習に利用するには十分であるし、自宅にいながら学習できるのは長期の休みの間だけでも効果的であろう。

周知期間が限られていたこともあるが、現在50名程度の学生がモバイルアカデミーを利用し、学習している。本学オリジナルコンテンツのほか、アルクオリジナルコンテンツ、また9月より就職関連コンテンツも配信されるようになった。今回のモバイルアカデミーの進捗や学生の反応を見て、さらなる独自教材の開発と授業内容の検討に努めたい。